けんせつ

東京土建のホームページ　http://www.tokyo-doken.or.jp/

印刷部数10万8600部
（購読料は組合費のなかに含まれています）
（年間購読料　千八百円）
定価　五十円

東京都新宿区北新宿1-8-16
東京土建一般労働組合
電話03（5332）3971（代表）
FAX03（5332）3972
発行人・編集人
吉川　豊

支部の住宅デー、土建まつり、等

住宅相談、木工教室、防災・減災の活動に取り組む各支部。点検商法の被害も増えており、地域に根ざす建設従事者を「見せる」取り組みが、地域からも求められています。（関連記事3面）

秋の拡大月間最終盤　月間成功目指し足止めず　目標達成へ

いよいよ最終盤となった仲間をふやす秋の拡大月間。組合員訪問で対話して未加入の仲間の紹介を得ようと、全体の成功をめざした、足を止めない取り組みが続きます。

分会長の深津さん（前列右から2人目）、三瓶さん（同3人目）、糸賀さん（後列右から3人目）

葛飾・水元

全世代の参加で超過へ

27歳の分会長を盛り立て

最終行動日の初日となる10月26日、水元分会のセンターに集まったのは11人。先週、久しぶりの住宅デーを終えたばかりで、少し疲れているところでしたが、いつも通り10人以上が集まりました。

目標13人に対して一人を残してこの日を迎えていましたが、支部常任執行委員の糸賀之充さんの紹介で最後の一人が加入し、見事に目標達成となりました。ただ分会は、もう一人の加入を予定しており、更に超過の予定です。また27日には、三瓶（みかめ）秀夫分会書記長が店長と知り合いという繋がりで、ホームセンターのユニハードウェアでの宣伝を計画。新しい立て看板を用意して未加入者に呼びかけ、更に対象者を増やそうという作戦です。

水元分会の分会長、深津優気さんは27歳という若さ。前分会長は糸賀常任で仕事の親方でもあります。深津さんは、それを継いで3年目となりました。昨年はコロナ禍のなか、活動らしい活動はできませんでしたが、今年は秋の月間前の一泊活動者会議などもあり「やっと楽しくなってきた」と話してくれました。

20時半に「外回り組」が戻ったところで終了かと思いきや、そこから住宅デーの反省会に。分会には、幅広い年代が思ったことを言い合える雰囲気があります。笑いを混じえながらも真剣な討議は、9時過ぎまで続きました。

小平東村山・野火止

市の制度実現伝え　手緩めず楽しみながら

矢澤さん（右）に資料を渡す内藤さん（中央）と佐々木さん

秋の仲間づくり月間も大詰めを迎えた10月20日、小平東村山支部は目標95人に対して成果60人の到達。この日も全分会が目標達成に向けて、第6次行動を取り組みました。

目標7人をいち早く達成した野火止分会では、その後も2人を追加。しかし、超過達成後も、夜には恩多ふれあいセンターに12人の仲間が集まってきました。

長引くコロナ禍でさまざまなイベントが中止になってきたので、「今度こそ大勢でバスレクへ行こう」「行き先はどこにする？」など話が盛り上がります。

最終盤にかけては、小平市と東村山市に要望してきた市内事業者支援策としての燃料費補助制度が両市で創設されたことに対するお礼と、建設業の仲間の現状を伝えてさらなる支援を訴える「全市議会議員〝お礼〟訪問行動」を支部を挙げて計画。佐々木茂巳副分長と内藤俊幸書記長が電話するもののなかなか議員の方々とアポが取れません。

それではと、仲間を訪ねますが、仕事や旅行に出かけていたりと不在続き。しかし、最後には矢澤直人さん宅では仕事の現状の話や拡大の訴えをすることができました。

千葉隆子分会長は超過達成の理由について「みんなが頑張ってくれたおかげ」とし、「このまま手を緩めることなくみんなと楽しみながら活動していきたい」と力強く話してくれました。

50県連・組合から1150人が参加
（会場はアスティとくしま）

全建総連

3年ぶりの対面大会

建設Aで千葉常任が発言

10月19日から3日間、徳島県で全建総連（全国建設労働組合総連合）大会が開かれました。全国から50県連・組合が参加（東京土建141人）、活発な討議のなかで新年度方針が確認されました。

3年ぶりの対面開催となったこともあり、冒頭、地元組合からは「3年分のお小遣いを持ってきたかい」との声。続いて、徳島県知事などの来賓があいさつに立ちました。

そして本会議では、特にインボイス、消費税について、執行部に熱意ある方針を求める質疑がありました。勝野書記長は「これまでの経緯を踏まえた、全体で合意の得られる運動を進め、インボイスの延期・見直しを求めていきたい」などと答弁し、理解を求めました。東京土建からは千葉一郎常任中執が仲間に寄り添う「建設アクションの取り組み」について発言しました。

新年度委員長には引き続き中西孝司さん（香川建労）、東京土建からは役員として中村隆幸副委員長、奈良統一書記次長、松尾慎一郎専従中執が選出されました。

朝やけ

■「ウクライナモデル」について、「建設労働のひろば」にも論文を寄せた政治学者の白井聡さんが述べている。すなわちそれは、自国の利益になるように自らは兵を出さず同盟国に敵対国と戦わせる戦術、ということだ。白井さん曰く、今の戦争の勝者はアメリカ、とりわけ同国の軍産複合体であるように見える、と。

■危機をあおられた各国の軍拡で、軍需産業が大きな利益を上げる。戦闘によって敵対的だったロシアの国力、国際的信頼性が低下する。そしてスウェーデン、フィンランドのNATO加盟も、皮肉にもこの戦争を通じて実現する可能性が高い。あわせて化石燃料と食料価格の高騰は、アメリカのエネルギー産業と農業ビジネスを潤すだろう。

■この戦争において、アメリカの政治経済上のメリットは見つかるが、短期的にはデメリットは見当たらない。振り返れば、バイデン大統領はウクライナ侵攻を予見しながらこれを座視、早々にNATOによる派兵はないことを宣言した。

■アメリカは容赦なくこの「ウクライナモデル」を台湾有事にあてはめるのではないだろうか。中国の国力を削ぐために、台湾と日本をけしかけて。その布石を見逃してはならないし、今の空気のなかで改憲に流されてはならない。9条がなければ、巻き込まれる。